

創刊に寄せて ～教員と事務職員の協働の場～

広島国際大学学長 焼廣益秀

広島国際大学総合教育センターは、2005年度に設置された「総合教育研究機構」を基礎として、2013年度に設置されました。その活動は、全学共通教育の実施、教学推進のための調査・企画、学力向上支援、FDなど多岐にわたります。本学の教育の特色である専門職連携教育も総合教育センターが企画し、実施しています。

記念すべき「広島国際大学総合教育センター紀要」創刊号には、教員の方による10編の論文が掲載されています。紀要とは、大学や研究所などが定期的に発行する研究論文や調査報告書を掲載したものです。創刊号に掲載された論文は、本学の学生さんを対象とした調査研究も多く、総合教育センターの紀要にふさわしいものとなりました。次号以降も積極的な投稿をお願いいたします。

この紀要では、教員以外の職員の方々の投稿についても期待しております。大学における教育には、事務系職員の方が主となって支援している領域も多くあります。大学には、現在でも、例えば、学生の健康管理等に関する専門的職員がおられますが、大学における業務の高度化に伴い、様々な専門的職員の必要性が高まっており、その制度化について、中教審でも議論されています。私立大学等改革総合支援事業における補助金は、各大学の様々な取り組みをポイント化し、その合計点が高くないと獲得できません。その取り組み項目として、様々な専門的職員の配置が増えてくることも予想されます。

また、大学設置基準改正では、2017年度からの大学運営業務に関する研修であるスタッフ・ディベロップメント(SD)の義務化が盛り込まれました。SDでは専門的職員の育成という観点も必要になってきます。義務化されたSDの対象には、教員も含まれていますし、キャリアや地域連携の部門の専門的職員が授業の一部を受け持つ大学も増えて来ており、専門的職員と教員との境界が曖昧になりつつある領域もあります。

このように、大学の業務がますます高度化・専門化していく中、SDの一環として、事務系職員の方々も自身の業務分野について、研究内容や調査報告をまとめるという習慣が必要になるのではないのでしょうか。総合教育センターが扱う領域は高大接続、キャリア形成、卒後教育など多岐に渡りますので、この紀要はこれらの職員の方々による活動発表の場として最適だと思います。教員の皆様も、このような職員の背中を押して頂いたり共著者となって頂き、教員だけではなく、事務系職員の発表の場となることで、実質的な教職協働や大学改革にも発展していくことを願っております。